

町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元気・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

子供たちの「期待」に応える～小学校入学に寄せて～

「あんなにかわいい瞳を、
どうしても濁しちゃいけない
と思つたわ」
（映画「二十四の瞳」 大石
先生の言葉

削ったばかりの鉛筆は木の
匂いがした。私は嬉しくな
る。鉛筆を握つて、机の前
に広げたノートに、何かを
書いているという自分に心
物を弾ませる。私は6歳。本
物の学校に通い始めたば
りだ。
（温又柔 おん・ゆんじゅ
う 4月7日 毎日新聞）

初めてAくんに会ったとき
Aくんは小学校一年生でし
た。彼は体は、とても大き
かったのですが、気持ちは
幼く、体力もありませんで
した。毎朝、登校途中で心
が折れ「もう歩きたくな
い」と駄々をこねて歩道に
寝転がってしまいました。班
長さん困らせていました。つ
つまでこのような状況が、
くのかと心配しましたが、
三月が経ち半年が経つと次
の班長さんを困らせてい
うなことは少なくなつてい
きました。
五年生になると彼は班長さ
んになりました。一年生の
女の子は、お母さんに「A
くんは優しくて頼りになる
お兄さんなの」と言つたそ
うです。Aくんは立派な成
長し卒業していききました。

今年度は、3つの小学校に209名の児童が入学しました。

私自身の小学校入学は、昭和42年でした。半世紀以上の歳月が経過していますので、入学式当日の記憶は、はなはだあいまいですが、校長は瀬戸治郎先生、担任は長島清子先生でした。小学校入学の日、母から「今日からは『お父ちゃん、お母ちゃん』ではなく、『お父さん、お母さん』と呼びなさい」と命じられました。「お父さん、お母さん」と呼んだ時には気恥ずかしい思いがしましたが、「今日から小学生になったんだ」と少し自分が大きくなった、成長した、という思いがしたことを覚えています。

新入生は、4月8日を期待と不安が一杯で迎えたことと思います。春休み中、お家の方と一緒に登校の練習をしている新入生の姿を見ました。入学を「楽しみだな」という気持ちと同時に「お兄ちゃんや幼稚園、近所のお友達もいるけど、お勉強は出来るかな？先生は怖くないかな？どんな事をするんだろう？」と不安で小さな胸を痛めていたことでしょうか。実際に新しい先生や新しいお友達に会ってその不安は少しだけ小さくなったのでしょうか。

「入学の吾子 人前に 押し出す」（石川桂郎）保護者の皆様にとりましても、「学校まで歩いて通えるのだろうか」「友達とは仲良くやっつけられるのだろうか」など不安を感じながらお子様を送り出していただいたことと存じます。でも、ご安心ください。お母さんと離れるのが悲しくて泣きながらようやく学校に連れてこられた子が、1年も経つと今度は同じように泣いている子を励ましたり、途中で歩けなくなって座り込んでしまい通学班の上級生を困らせていた子が、学年が上がると立派な班長さんとして下級生を導いてくれたりと（冒頭のAくんのような子をたくさん見してきました）、子供たちが、いつの間にか大きく成長する舞台、それが学校です。確かに成長の過程ではいろいろな困難にぶつかりますが、「長い目で見るとそれもよい経験だった」と振り返る時が来ると思います。不安や疑問を感じたときは、どうぞ遠慮なく学校や教育委員会にご相談ください。

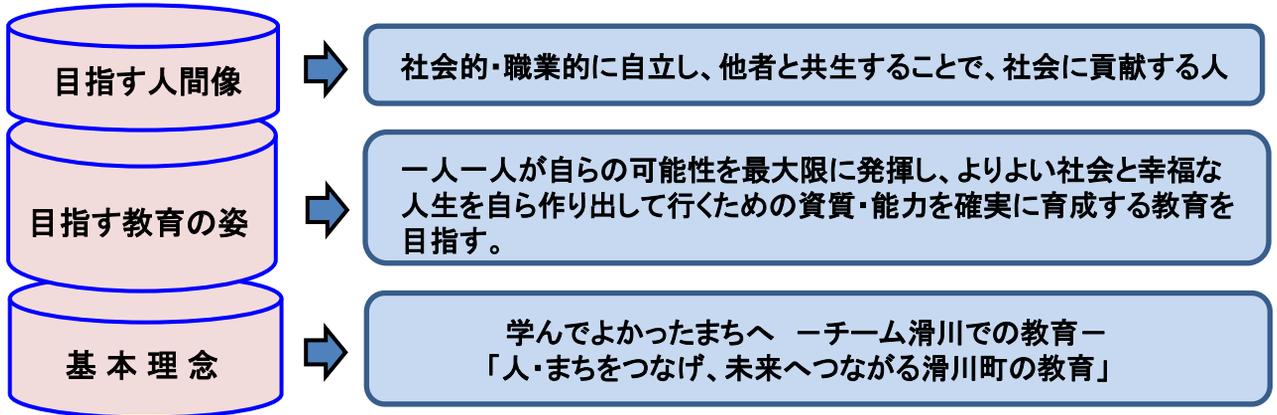
「初めての1年生担任...この子たちをしっかりと導いていけるのかしら」実は、担任の先生方も期待と同時に大きな不安を感じています。

「できるかな」「やれるかな」と不安に感じているけれど、「できたらいいな」「やり遂げたら嬉しいな」といった達成の予感がする。その予感が「期待」なのだと思います。子供たちの、そして、保護者や教師の「期待」が実現できるようお互いに支え合いたいものです。

It takes a whole village to raise a child. 「ひとりの子供を育てるには村が丸ごと必要である」アフリカの諺です。「町の子は町で育てる」学校、家庭、地域...一致協力して一人一人の子供を見守って参りましょう。

新たな学びの創造

第3期滑川町教育振興基本計画



3つの目標

- ・新しい時代を切り開いていく「生きる力」を育む
ー社会的・職業的に自立するための基礎を培うー
- ・学校・家庭・地域連携による教育力の向上を図る
ー学校・家庭・地域が互いに育て合い、子供・地域を支えるー
- ・いくつになっても共に学び続けられる環境で生涯学習を充実し、次世代に引き継ぐ
ー町民が町の文化芸術、スポーツを育てるー

教育の目的は「子供を成熟した大人にすること」です。では、成熟した大人、成熟した市民とはどのような人のことでしょうか…学習指導要領の前文に「…一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように…」とあるように、「共生」「協働」する力や「問題解決能力」をもつことが成熟した市民の条件と言えそうです。これを滑川町の教育振興基本計画では、「社会的・職業的に自立し、他者と共生することで、社会に貢献する人」と表現しています。成熟した大人のイメージとして、「自立・共生・協働・貢献」があげられると思います。「それは私の責任です」「私が何とかします」といえる人と言い換えることもできます。

滑川町教育委員会は、第3期滑川町教育振興基本計画に基づき、多くの人の笑顔が見られるよう、一人一人が自分の身近なことから他者のことや社会の様々な問題に至るまで関心を寄せ、町の一員としての意識を持って取り組めるようにしていきます。

未来の創り手である子供たちの資質・能力を確実に身に付けるとともに、それを支える周りの皆さんも「笑顔」で「元気」であるように、「つながり」と「絆」を意識して取組を進めていきます。

生涯にわたり、誰でも「可能性」と「チャンス」が、最大限に生かせる地域づくりが、新しい時代への過渡期を生きる私たち大人の責任であり、教育関係者に負わされた責務であると認識し、全力で教育行政を進めてまいります。

令和6年度も御理解、御協力の程よろしくお願いたします。